

「持続可能な多世代共創社会のデザイン」 研究開発領域

提案書作成の留意点

1

平成26年度 募集説明会
社会技術研究開発センター(RISTEX)

全体的な留意事項

- 領域目標の達成に資する提案を求めています。
- 特に、募集要項の以下をよく読んでから作成してください。
 - [募集・選考にあたって本領域が求めるもの](#) (p.5-6)
 - [研究開発領域の目標](#) (p.8)
 - [選考にあたっての基準](#) (p.14)
 - [提案書の記載要領](#) (p.47-61)
- 募集するのは、[研究開発プロジェクトのみ](#)です。
 - プロジェクト企画調査は募集しません。
- 応募は、[e-Rad](#)により行っていただきます (p.39-46)。

査読の評価基準と提案書の参照項目

大項目	中項目	視点	提案書参照項目
主旨	社会技術研究開発の主旨	社会の具体的な問題解決を目的とし、社会実装に資する成果創出が期待できる。	全体、様式3_1-3、2-1
		単なる取組ではなく、研究開発による社会問題の解決を目指している。	全体
		自然科学(医学・工学等含む)と人文・社会科学の双方の知見を活用した問題解決を目指している。	様式3_1-4(3)
		成果の他地域での実装・展開に向けて、事例の一般化や知見の体系化が期待できる。	様式3_1-4(1)、(3)
	本プログラムの主旨	目指すべき持続可能な社会のビジョンが的確に示されている。	様式3_1-2
		多世代共創による社会のデザインを目指している。	様式3_1-2
		目指すべき社会への移行プロセスが的確に示されている。	様式3_1-2
		都市・地域が抱える問題を多面的にとらえ、包括的なアプローチによる解決を目指している。	様式3_1-2
提案の構想	目標設定	社会の具体的な問題を特定し、解決すべき問題の把握が的確になされている。	様式3_1-1、1-5(1)(3)
	実施内容	社会問題解決のための検討事項や手順等が盛り込まれている。	様式3_1-4(1)(2)(4)、1-5(3)、1-6
	提案の新規性	類似・関連の取組動向が整理され、それらとの関係が明らかになっている。	様式3_1-1、1-4(1)、1-5(1)
	実施体制(研究代表者)	研究代表者は十分な考察または経験を有し、プロジェクト全体に責任を持てる。	様式3_1-5(1)、様式5
	実施体制(協働体制)	問題解決に取り組む人と研究者の適切な協働体制となっている(採択後に期待できる)。	様式2、様式3_1-5(2)、様式4、様式6
	実施体制(実装の担い手)	成果の社会実装の担い手が想定されており、協働や育成、実装のためのプラットフォームの構築が期待できる。	様式3_1-2、1-4(1)(2)、2-1
	規模	目標達成に向けて適切な方法・スケジュール・体制・予算規模となっている。	全体、様式7
波及効果	社会への波及効果	実施者のPJ終了後の活躍をはじめ、様々な社会への波及効果が期待できる。	全体、様式3_2-2
	研究分野への波及効果	今後の学術・研究の発展や類似の研究開発への波及効果が期待できる。	全体、様式3_2-3

【様式1】プロジェクトの要旨 (P.49)

- 全体でA4・1ページ以内で簡潔に記載してください。
- 「課題名」は大切です。
 - 何をめざすプロジェクトなのかを端的に表現してください。
 - 副題はつけないでください。
- 「総研究開発費」は、3年間の総額を記載してください。
- 「キーワード」は、独自に設定してください。
- 研究実施対象となる都市・地域を1つ以上、記載してください。
- 「達成目標」では、400字以内で以下の2点を盛り込み、何をめざすプロジェクトなのか分かるよう、簡潔に記載してください。
 - ① プロジェクトが中・長期的にめざす目標
 - ② ①に向けて、プロジェクト期間内(3年間)で達成する目標
- 「構想の概要」では、様式3「研究開発プロジェクトの構想」の要点を簡潔に記載してください。

【様式2】実施体制－構成図－（P.50）

- 研究開発グループの構成・役割が簡単に分かるよう、A4・1枚で図示してください。
 - グループは1つでも構いませんが、協働体制や各実施者の役割が分かるように工夫してください。
- 各グループにどのような立場（産学官市民、研究分野）の実施者が属するか、どのような協働体制を想定しているのかが分かるよう記載してください。
 - 企業等の産業界 → 産
 - 大学等研究機関：自然科学系(医学・工学等含む) → 学(自)
 - 大学等研究機関：人文・社会科学系 → 学(人社)
 - 大学等研究機関：自然科学と人文・社会科学 → 学(自／人)
 - 自治体等の行政機関や司法機関等 → 公
 - NPO、NGO、自治会等 → 市民

【様式2】実施体制－構成図－ (P.50)

- プロジェクトの実施者ではないが、プロジェクトに協力する関与者や組織がある場合には、表に記載してください。
 - 協力を得ることが了解されている人・団体のみ記載

実施者

- 研究開発を主体的に実施するメンバー
- 研究者でなくても構わない

協力者

- 都市・地域等で社会実験を受け入れる立場の人や、研究開発に助言を行う人など

【様式3】プロジェクトの構想 (P.51-53)

- 1-1.~2-3.を、A4・10ページ以内で作成してください。
簡潔に分かりやすく記載することが大切です。
- 各項目の注釈をよく読んで作成してください。

【様式3】プロジェクトの構想

1. プロジェクトの計画 (P.51)

1-1. プロジェクトが解決すべき問題およびその必要性

- 本プロジェクトの必要性、新規性を評価
- プロジェクトの背景、類似の取り組みや政策、研究等の整理

1-2. プロジェクトが目指す持続可能な社会のビジョンおよびそれを実現するための移行プロセス

- 本プログラムの主旨と合致しているかどうかを評価
- ビジョン: 目指す社会の像
- プロセス: 市民や地域の変化も含めた、ビジョン実現までの道筋
- 図でも可

1-3. プロジェクトが目指す目標および成果

- 中・長期的な目標と、プロジェクト期間内(3年間)の短期的な目標
- 定量的な目標だけでなく、定性的な目標も含めて

【様式3】プロジェクトの構想

1. プロジェクトの計画 (P.51-52)

1-4. プロジェクトの具体的な内容と計画

(1) プロジェクトの実施内容、マイルストーン

- 目標達成に向けて実施する項目を具体的に記載
- 実施項目間の関係性、位置づけが分かるように
- 各実施項目について、いつまでに何を達成するのか、マイルストーンを記載

(2) プロジェクトのスケジュール

- (1)の内容に沿って、実施項目ごとに何をいつ行うのかを記載
- ↓などで、項目間の関係を記載することも可

※ (1)(2)は、様式2、4「実施体制」の基になります。

(3) 分野横断的な知見の活用と、成果の一般化・体系化

- 自然科学と人文・社会科学の双方にまたがる分野横断的な知見をどのように活用するのか
- 成果を社会実装するために、どのように一般化・体系化するのか

(4) 予想される課題と、その対応策

【様式3】プロジェクトの構想

2. プロジェクト成果の活用・展開と将来展望 (P.53)

2-1: 成果の他地域への実装・普及への展望

- 直接的なプロジェクト成果の展開・展望を記載

2-2: 社会への波及効果

- プロジェクトを端緒として、間接的に社会に及ぼす様々な波及効果を記載

2-3: 学術・研究分野への波及効果

- プロジェクトを端緒として、間接的に学術・研究分野へ及ぼす様々な波及効果を記載

【様式4】実施体制(2) (P.54-55)

ーグループごとの実施者と実施項目の概要ー

- 研究代表者が率いるグループを「1」に記載し、複数グループがある場合は、「2」「3」・・・と追加
- プロジェクト全体の成果創出に向けて、適切な実施体制となっているか、グループ間の有機的な連携が期待できるかなどを評価

【様式4】実施体制(2) (P.54-55)

ーグループごとの実施者と実施項目の概要ー

1-1. 実施項目・位置づけ

(1) 実施項目

- [様式3.1-4\(1\)\(2\)](#)に記載した[実施項目の中から](#)記載

(2) 本グループの位置づけ

- プロジェクト全体の中での[位置づけ](#)、[役割](#)、[他のグループとの関係性](#)を簡潔に説明

1-2. 体制

(1) プロジェクトの実施者

- 実施者は、[複数グループに所属可能](#)

(2) グループへの協力者

- [協力を得ることが了解されている](#)人や団体のみ記載
- 実施者と協力者との間の、これまでの[協力関係の有無](#)を記載
 - ※ 協力関係がないことが、ただちにマイナス評価となるわけではありません。必要な協力者、体制を検討してください。
 - [様式3.1-5\(2\)](#)に、調整・準備状況を記載してください。

【様式5、6】関連する取り組みリスト 研究代表者、グループリーダー (P.56-57)

- 1人につき、A4・1枚以内で記載してください。
 - 3つのグループがある場合：様式5、6合わせて3ページ以内
- 研究代表者が十分な考察または経験を有しているか、グループリーダーがグループを率いるのに適切かどうか、プロジェクトの協働体制は適切かどうかを評価する際に参考にします。

<主要な実績>

- 研究業績だけでなく、問題解決のための実践的な取り組みに関する成果も記載
- 提案内容に関連するもの5件以内(研究業績、取り組み合わせて)

<RISTEXにおける研究開発への参画経験>

- 過去の経験、評価結果を参考にします。

【様式7】 研究開発費の見込み (P.58)

- 費目別の研究開発費の見込みを年度ごとに記載してください。
- 面接選考の対象となった場合には、機関ごとのものなど、さらに詳細な計画を提出していただきます。
- 採択後に研究開発費の見直しをお願いすることがあります。
- 特定の費目が総額の50%を超える場合は、その理由を「特記事項」に記載してください。

【様式8】他制度での助成等の有無 (P.59-60)

- 研究代表者およびグループリーダーが現在受けている、あるいは申請中・申請予定の助成等について記載してください。
 - 国の競争的資金制度
 - 民間の助成金 など

【様式9】特記事項 (P.61)

- 社会技術研究開発事業に応募した理由や、研究開発に際してのご希望、ご事情、その他、評価者に伝えたい内容等があれば、A4・1枚以内で記載してください。
- 以下に該当する場合は、記載してください。
 - 海外の機関に所属する方が、海外の機関を拠点に実施者として参加される場合
→ その理由を記載してください。
 - 研究代表者が、現在、国内の特定の法人に所属しておらず、採択された場合に国内の法人に所属する予定がある場合
→ 事情を記載してください。

応募締切

9月1日(月)正午 <厳守>

(e-Radでの受付期限)

たくさんのお応募をお待ちしています。